

仙台市交通事業経営計画  
(令和3～12年度)

これまでの振り返り

仙台市交通局



# 目次

※[ ]はスライド番号

- (1)仙台市交通事業経営計画（令和3～12年度）の位置づけ [7]
- (2)経営計画に掲げる経営の基本方針 [8]
- (3)4つの戦略に基づく取組みの主な実績

## 戦略1 安全・安心の推進

- ①安全運行の確保 [9]
  - ◆安全運行確保のための研修・訓練の実施 [10]
  - ◆安全運行にかかる装置等の設置・更新 [11]
  
- ②危機・自然災害への対応 [12]
  - ◆適切な情報発信 [13]
  - ◆大雨による浸水への対応 [14]
  
- ③施設設備の計画的な維持更新 [15]
  - ◆IC乗車券システムの安定的な運用 [16]
  - ◆南北線車両更新 [17]
  - ◆市バス営業所建物の更新 [18]

【参考】経営計画における投資計画 [19、20]

## 戦略2 快適なお客さまサービスの提供

### ①乗車サービスの向上 [21]

#### ◆利便性の高い乗車券制度の実施 [22、23]

(企画乗車券の仙台MaaSによる販売、学都仙台フリーパス)

### ②利用しやすい環境整備 [24]

#### ◆バスと地下鉄の連携強化（乗継ぎ利便性の向上） [25]

#### ◆南北線車両更新に合わせた利便性向上 [26]

#### ◆人とまちに優しいバス車両の導入 [27]

#### ◆バス待ち環境の向上 [28]

## 戦略3 まちづくりへの貢献

### ①公共交通を中心とした交通体験の充実 [29]

#### ◆地域の移動手段の確保に向けた取組みとの連携 [30、31]

### ②まちづくりとの連携・社会への貢献 [32]

#### ◆福祉施策への貢献（敬老乗車証、ふれあい乗車証） [33、34]

## 戦略4 持続可能な経営の確保

### ①経営基盤の強化、経営の健全化 [35]

◆資産の有効活用 [36、37、38]

◆バス運転業務の管理の委託 [39]

◆駅業務委託の実施 [40]

◆バスの利用に応じた運行の効率化（路線廃止、便数調整） [41]

◆【新】地下鉄の利用に応じた運行の効率化（便数調整） [42]

◆【新】icscaポイント制度の見直し [43]

◆広告料収入の確保 [44]

### ②人材の育成・確保 [45]

◆【新】デジタル技術の活用による事務の効率化 [46]

◆安定的な人材確保 [46、47]

◆ワークライフバランスの推進 [47]

(4)モニタリング指標 [48、49、50]



## (1) 仙台市交通事業経営計画(令和3~12年度)の位置づけ

当局の経営戦略は、それまで「自動車運送事業経営改善計画（H29～H33）」のみであったところ、市バスと地下鉄が一体となって本市公共交通体系を構築し、密接に関連していることに鑑み、両事業を一本化した経営戦略として令和3年3月に策定したもの。（国が公営企業に策定を求める「経営戦略」）

生産年齢人口の減少、新型コロナウイルス感染症による利用者の減少等、極めて厳しい経営環境の中にあって、市バス・地下鉄を市民の身近な公共交通機関として安定的に維持していくための経営の基本的な方針や具体の取組み、財政収支計画等を取りまとめた。

計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間。



## (2) 計画に掲げる経営の基本方針

### ●両事業共通

生産年齢人口の減少や新型コロナウイルス感染症等により経営環境が厳しさを増す中であっても、安全・安心を最優先に交通事業者としての役割を果たし、お客さまに継続して利用いただけるよう便利で快適なサービスを提供しながら、持続可能な公営企業を目指します。

### ●自動車運送事業

需要の少ないエリア等、運行効率が悪い路線について見直しを行うとともに、適正な運賃設定を行い、中長期的な安定経営を目指します。

【財政目標】 ①市バス走行1 kmあたりの収入増加

②計画期間中の資金不足比率を経営健全化団体の判断基準である20%未満に抑制

③一般会計補助金繰入額を抑制

### ●高速鉄道事業

大規模な資本的支出を見据え、投資の選択と集中を行うとともに、更なる増客・増収を図り、中長期的な安定経営を目指します。

【財政目標】 ①計画期間内の単年度損益を黒字化

②東西線開業40年以内（令和36年まで）の累積赤字解消を念頭に、累積赤字を低減

③資金収支の均衡

### (3) 4つの経営戦略に基づく取組みの主な実績

戦略1  
安全・安心の  
推進

#### 【目指すべき姿】

交通事業者として最大の責務である輸送の安全を確保し、お客さまに安全・安心にご利用いただける市バス・地下鉄を目指します。

#### 取組1 安全運行の確保

・運輸安全マネジメント制度に基づき、安全管理の継続的な改善に取り組むとともに、関係機関と連携した啓発活動を実施し、安全・安心な利用環境づくりを推進します。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全運行確保のための研修・訓練の実施（バス・地下鉄）</li> <li>・運転技術の向上（バス・地下鉄）</li> <li>・職員の健康管理の推進（バス・地下鉄）</li> <li>・マナー啓発や安全意識の醸成（バス・地下鉄）</li> <li>◆安全運行に係る装置等の設置・更新（地下鉄）</li> </ul>
○	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停留所の安全性確保</li> <li>◆安全運行に係る装置等の設置・更新（バス）</li> </ul>
△	0	

## ◆安全運行確保のための研修・訓練の実施

安全運行に必要なとなる知識・技術の習得や、危険感受性を高めるための訓練や研修等を実施。

### ・バス

#### 「事故削減プロジェクト研修」

安全・確実・快適な輸送を提供し、お客様に信頼される公営交通を持続するため、乗務員に求められる知識及び安全運行に欠かせない運転行動等のスキル向上に向けた研修を実施。

◎ 外部専門講師による講義

◎ 実技研修



### ・地下鉄

#### 「仙台市高速鉄道総合防災訓練並びに鉄道合同防災訓練」

宮城県警（R3、4）や仙台市消防局（R3）と合同で訓練を実施。

#### 【主な内容】

R3 薬剤散布を想定したテロ対応訓練

R4 車内傷害事件を想定した対応訓練、護身術講義

#### 「情報伝達訓練」

異常時における即応体制の確立を図り、職員間の情報伝達及びお客様への情報発信が迅速・的確に行えるよう定期的に実施。



## ◆安全運行にかかる装置等の設置・更新

厳しい経営状況の中であっても、お客さまの安全・安心のための投資は最優先で行っている。

### ・バス 安全確認放送装置の設置

歩行者や自転車等との接触を防止するため、「音声」と「チャイム」により車両の接近を周囲に知らせることができる安全確認放送装置を新車で購入した車両に装備し、安全性向上を図る。

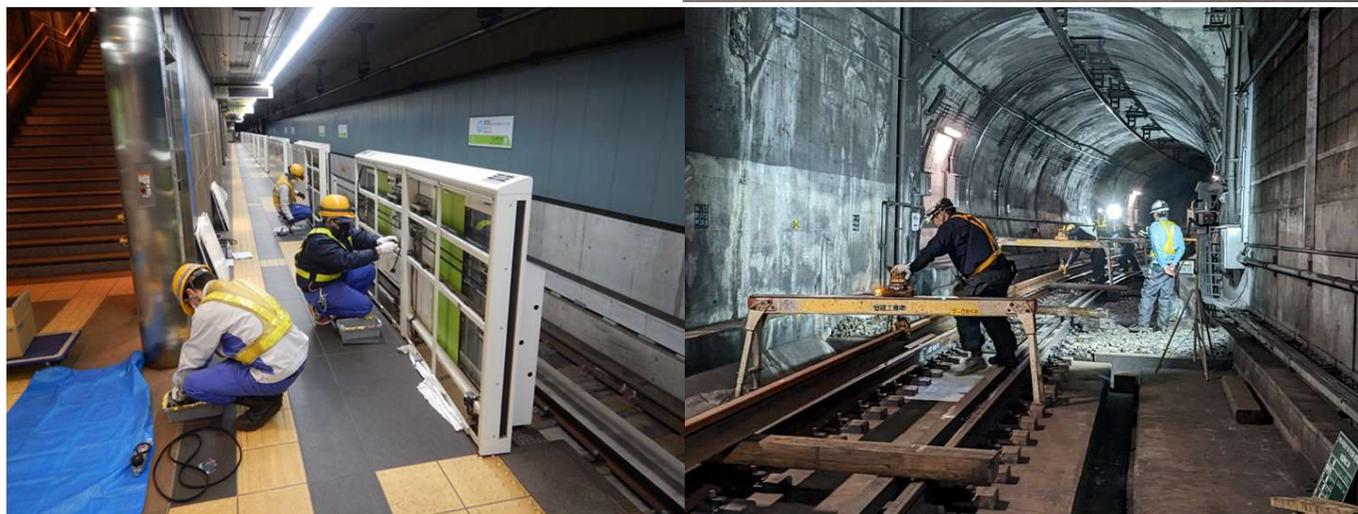


### ・地下鉄 ホーム柵整備、レール交換

ホーム柵の定期点検・部品交換等を行い、安全性・信頼性を確保。

レールの摩耗等の状況を定期的に点検し、必要に応じ、レール交換を実施。

レールを溶接し継ぎ目をなくすことで、列車走行時の騒音低減、乗り心地向上を図る。



## 取組2 危機・自然災害への対応

- ・地震や大雨等の災害時及びテロや感染症発生時にもお客さまの安全が確保できるよう、適切な情報提供を行うとともに、関係機関と連携した継続的な防災訓練等、平時の備えを強化します。
- ・お客さまに安心してご利用いただけるよう、万全の感染症対策に取り組めます。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機・自然災害への対応訓練の実施（バス・地下鉄）</li> <li>・計画運休</li> <li>◆適切な情報発信</li> <li>・非常時における電源、燃料の確保（バス・地下鉄）</li> <li>◆大雨による浸水への対応（バス・地下鉄）</li> <li>・感染症対策（バス・地下鉄）</li> </ul>
○	0	
△	0	

## ◆適切な情報発信

- ・交通局ウェブサイト、Twitter

運行情報や新型コロナウイルス感染症防止対策の協力要請等を適宜発信。その他、タイムリーな情報もTwitter等を活用し発信。

また、交通局ウェブサイトについて、自動翻訳（Google翻訳）を導入し、外国語での情報発信にも対応。

## Twitterフォロワー数

R3.3 7,700人

R4.3 13,000人

R5.3 16,000人



- ・交通局ウェブサイトサーバ増強

災害時等のアクセス集中に対応できるようにするため、交通局ウェブサイトのサーバーを令和5年度より増強予定



親しみを持っていただける話題も積極的に発信

## ◆大雨による浸水への対応

- ・地下鉄駅やバス営業所への土のう・止水板配備  
大雨により冠水が想定される箇所をハザードマップ等で確認し、土のうや止水板を配備。

### 【参考】止水板整備駅（令和5年3月現在）

南北線：仙台駅、五橋駅、愛宕橋駅、河原町駅、長町一丁目駅、長町駅、長町南駅

東西線：川内駅、宮城野通駅、連坊駅、薬師堂駅、卸町駅、六丁の目駅、荒井駅

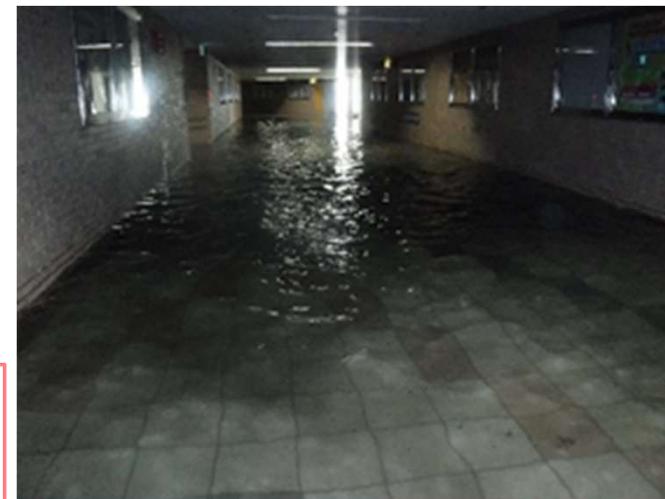
※令和3年3月の内水ハザードマップ改訂を受け、南北線勾当台公園駅、広瀬通駅、東西線仙台駅にそれぞれ1箇所ずつ新たに止水板を増備する予定（令和5年度施工予定）

- ・点検・訓練、本局職員の運転技能保持

地下鉄駅職員の避難誘導訓練／止水板設置訓練を実施。

災害発生時にバス営業所から車両を避難させる要員を確保するため、本局の事務職員の運転技能習熟訓練を実施。

令和元年  
東日本台風時の  
仙台駅浸水状況



### 取組3 施設設備の計画的な維持更新

・市バス・地下鉄の車両や設備について、安全性を確保し将来にわたり良好に維持できるよう、計画的な保全・更新に取り組むとともに、経常的な経費の削減に取り組めます。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>IC乗車券システムの安定的な運用</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス車載器の更新</li> </ul> </li> <li>◆<u>南北線車両更新</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造物の長寿命化</li> </ul> </li> </ul>
○	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>市バス営業所建物の更新</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄各種施設設備の更新</li> </ul> </li> </ul>
△	0	

## ◆IC乗車券システムの安定的な運用

イクスカ  
icsca

icscaは、仙台市バス・地下鉄、宮城交通・ミヤコーバスのほか、仙台SuicaエリアのJRでも利用可能。

また、icscaを利用することで、対キロ区間制のバス定期券や仙台市等の多様な福祉施策を実現している。

(敬老乗車証、ふれあい乗車証、富谷市「とみパス」、大和町「サブローカード」)

### ・IC乗車券システムを構成するサブシステム

サブシステム	概要	次期更新計画
センターシステム	カード登録情報や残高を管理します。バス・地下鉄各システムとつながり、決済を行う。	令和7～8年頃
定期券発行機システム	発券や定期券発売など、窓口サービス全般を担う。	令和10～11年頃
チャージ機システム	地下鉄駅から離れた場所（みやぎ生協等20か所）に設置されたチャージ専用の機器	令和12年以降

投資計画に従って、計画的にシステム更新を実施。

## ◆市バス営業所建物の更新

営業所、出張所等の建築物・付帯設備の改修や更新を行う。

施設の長寿命化を図るとともに、長期的視点で維持管理費の節減を目指す。

- ・更新予定の営業所・出張所

川内営業所（R4～R7）

実沢営業所（R5）

白沢出張所・東仙台営業所（R7～）

### ○主な更新仕様項目

- ・将来的なレイアウト変更時への対応を考慮し、フリーアクセスフロアの採用
- ・省エネ性能を有するサッシの採用
- ・省エネ節水型の衛生器具の採用
- ・使用電力の削減を考慮し、LED照明の採用
- ・改修工事の回数削減を考慮し、汎用品で耐用年数の長い材料の採用
- ・ユニバーサルトイレの整備

## ◆南北線車両更新

南北線は昭和62年の開業から35年以上が経過し、耐用年数を迎えることから車両更新を行う。

### ・新型車両の特徴

#### ●安全性の向上

- ・各車両に4台の防犯カメラを設置し、車内セキュリティを向上
- ・ドアに人が挟まると動作を止める電気式の戸閉装置を導入

#### ●快適性の向上

- ・車両の低床化によりホームとの段差を縮小
- ・より快適な車内環境とするため、冷房能力を1.5倍に向上
- ・静かな車内を提供するため、車体にアルミ二重構造とペアガラス窓を採用
- ・案内表示器にカラー液晶式を採用
- ・車いす・ベビーカースペースを増設し各車両に1カ所設置
- ・座席の中間にある縦手すりを増設

#### ●環境負荷の低減

- ・省エネ化と保守の省力化のため、高効率・密閉型のモーターを採用
- ・モーターの制御装置に省エネ機器を採用
- ・環境負荷低減と軽量化を目的に、無塗装の車体を採用

### ・今後のスケジュール

令和5年度下期 本線走行試験実施



## 【参考】 経営計画における投資計画

計画期間中の主要な投資更新事業と事業費は以下のとおり

### ◆自動車運送事業

(単位：税込み、億円)

	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	総計
バス車両更新	—————▶										61
バス車載機更新 (運賃箱・IC関連機器等)			————▶								26
営業所・整備工場 建物更新・改修		————▶									13
IC乗車券システム機器等更新		——▶		————▶				————▶			7

## ◆高速鉄道事業

(単位：税込み、億円)

	路線	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	総計	
南北線車両更新	南北線				→							193	
券売機・改札機等更新	南北線・東西線		→										91
配電線更新 (電車線・駅舎配電線)	南北線	→										60	
駅舎内電気・機械設備更新 (動力盤、配管等)	南北線・東西線	→										40	
電力管理システム更新	南北線・東西線				→						→	35	
変電所等設備更新	南北線				→							33	
可動式ホーム柵更新	南北線										→	20	
IC乗車券システム機器等更新	南北線・東西線		→		→					→		18	
配電室設備更新	南北線	→										17	
土木構造物老朽化対策 (トンネル・高架橋)	南北線	→										15	

- ・事業費は、過去の実績等からの概算値です。また、収支計画は過去の実績に照らした執行率を乗じています。
- ・事業実施・金額・規模等について、今後の経営状況や社会情勢等に照らして決定していきます。
- ・矢印は、事業費執行予定額が大きい年度を示しています。必ずしも事業着手や終了の年次を示すものではありません。

戦略2  
快適なお客さま  
サービスの提供

【目指すべき姿】

丁寧な接遇を徹底するとともに、お客さまのご期待やニーズに応える質の高いサービスを提供することにより、お客さまにご満足いただける市バス・地下鉄を目指します。

取組1 乗車サービスの向上

・より多くのお客さまにご利用いただけるよう、お客さまのニーズを適切に捉え、サービスの充実と改善に取り組めます。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接遇教育の充実による接客サービスの向上（バス・地下鉄）</li> <li>・ バス運行管理者・駅務係員のサービス介助資格取得（バス・地下鉄）</li> <li>◆<u>利便性の高い乗車券制度の実施（企画券等、学都仙台フリーパス）</u></li> <li>・ 「知りたい」に応える情報提供の充実（広報等、システム関係）</li> <li>・ お客さまの声を大切にした事業運営</li> <li>・ オープンデータの推進（バス・地下鉄）</li> <li>・ 定時性の向上に向けたダイヤの編成</li> </ul>
○	0	
△	0	

## ◆利便性の高い乗車券制度の実施

### 【企画乗車券の仙台MaaSによる販売】

公共交通の利用促進や、来訪者の増加による賑わいの創出を目指して仙台市が提供するMaaSサービスに令和3年度より参画し、デジタルチケットの販売やQR改札の実証実験等を実施。

令和3年度：120円パック区一日乗車券(※1)実証実験（令和5年4月より本格販売）

るーぷる仙台、るーぷる仙台・地下鉄共通一日乗車券の販売

令和4年度：地下鉄一日乗車券のデジタル化実証実験（QR改札）

令和5年度：緑化フェア周遊パス(※2)の期間限定販売（QR改札）

#### ・現状の課題

- ①仙台MaaSについて、利用者の認知度が低いこと。
- ②地下鉄自動改札はQRコードの読み取りに対応していないことからスムーズな改札が困難であること。
- ③改札外に設置するQRコードリーダー操作や、目視改札において、駅務員や乗務員の負担増につながること。

⇒仙台市（担当：まちづくり政策局）と協力し、認知度向上に努めるとともに、利用したくなるような仙台MaaS独自の券種を販売していく。



- ※1：市中心部のバス運賃を120円に設定している一定区域内において、市バス・宮城交通バスが乗り放題となる一日乗車券
- ※2：全国都市緑化仙台フェア期間中、地下鉄全線と市バスの一部路線が乗り放題となる一日乗車券

仙台MaaSにおける販売実績（枚）	3年度	4年度	5年度
120円パック一日乗車券	89	274	未
るーぷる仙台一日乗車券	129	1,145	未
るーぷる仙台・地下鉄共通一日乗車券	41	266	未
地下鉄一日乗車券（3日間・実証実験）	—	161	—
緑化フェア周遊パス（54日間・期間限定）	—	—	1,303

## 【学都仙台フリーパス】

学生や生徒、児童を対象に、市バス全線や希望する地下鉄路線が乗り放題となる通学定期券であり、学生の公共交通機関の利用促進等を目的に、平成20年度より実証実験を開始。平成22年度より本格実施。

販売実績 (1カ月換算・枚)	元年度	2年度	3年度	4年度
市バス	83,876	58,547	63,194	69,224
地下鉄（南北線）	65,575	35,991	45,184	54,365
地下鉄（東西線）	48,023	24,300	34,231	43,423
地下鉄（全線）	29,640	17,129	22,292	25,222
市バス+地下鉄	29,160	16,611	18,997	21,120

(販売価格)	
市バスフリーパス	5,970円/月
地下鉄フリーパス 1線のみ	6,990円/月
地下鉄フリーパス 2線	8,390円/月
市バス・地下鉄フリーパス (市バス+1線)	11,140円/月
市バス・地下鉄フリーパス (市バス+2線)	12,330円/月

コロナ禍による登校日数減（オンライン授業の継続、アルバイト・サークル活動減）や、他交通手段（自転車等）への逸走により、他券種よりも回復も遅い状況。

⇒公共交通利用の魅力を学生・保護者にアピールする必要がある。

▶東北学院大生向け販促チラシ（R4）



## 取組2 利用しやすい環境整備

・お客さまにより快適に乗車いただけるよう、お客さまの利用しやすい環境整備に取り組みます。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>バスと地下鉄の連携強化（乗継ぎ利便性の向上）</u></li> <li>・バスや地下鉄におけるWi-Fiサービスの提供（バス）</li> <li>◆<u>南北線車両更新に合わせた利便性向上</u></li> <li>・地下鉄朝ラッシュ時の混雑対策</li> <li>・地下鉄券売機の機能向上の検討</li> </ul>
○	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい案内サイン</li> <li>・バスや地下鉄におけるWi-Fiサービスの提供（地下鉄）</li> <li>◆<u>人とまちに優しいバス車両の導入</u></li> <li>◆<u>バス待ち環境の向上</u></li> <li>・LED行先表示機の機能向上</li> </ul>
△	0	

## ◆バスと地下鉄の連携強化（乗継ぎ利便性の向上）

- 時刻表示器（液晶表示ディスプレイ）の設置  
八乙女駅に2か所、旭ヶ丘バスターミナルに2か所、  
泉中央駅に1か所、長町南駅に1か所、薬師堂駅に2か所  
荒井駅に1か所、八木山動物公園駅に1ヶ所設置



- 乗継ぎ時間を確保したダイヤ編成

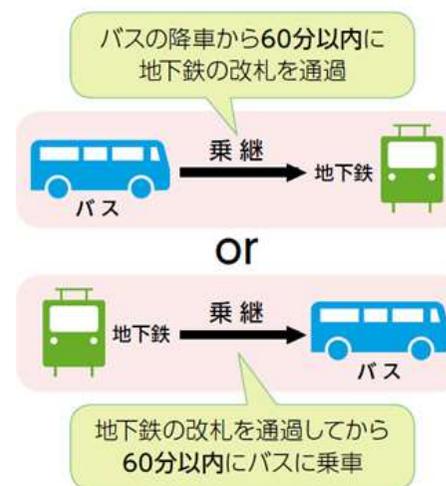
- 「乗継ポイント」の継続

icsca使用でバスと地下鉄を乗り継いだ場合に

「乗継ポイント」（ポイントはチャージすることで運賃として利用可能）を付与。

令和4年度乗継ポイント付与実績 56,131,309ポイント

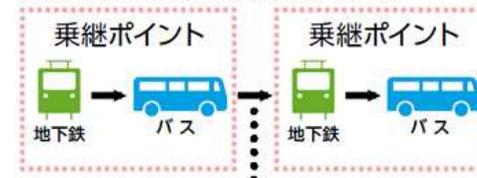
➤R5.4～icscaポイント制度見直しにおいても、地下鉄にバスが結節する交通体系の形成に向けた取組みを引き続き推進するため、乗継ポイントは継続している。



(貯まるポイント数)

運賃額	ポイント数
大人運賃	30ポイント
小児運賃	15ポイント
大人福祉運賃	15ポイント
小児福祉運賃	7ポイント

(複数乗継の場合の乗継ポイント)



乗継ポイントは貯まりません

## ◆南北線車両更新に合わせた利便性向上

### ・南北線ホームの隙間縮小

第3期仙台市交通局バリアフリー特定事業計画  
(前期：令和3年度～令和7年度)に基づく取組み

南北線のホームと車両の隙間は、現在、直線部分で約7cmある。その隙間に、隙間調整材という楕状のゴムを設置し、直線部の隙間を約3cm程度に縮小。

⇒令和7年度末までに南北線の全17駅で工事完了予定  
令和4年度までに3駅（長町南、仙台、長町一丁目）完了



完了年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
実施駅	長町南	仙台 長町一丁目	泉中央 勾当台公園 五橋 長町	5駅程度	5駅程度

※実施時期と実施駅は予定です。工事の進捗によって前後する可能性があります。

## ◆人とまちに優しいバス車両の導入

高齢者や障害のある方でも乗り降りの負担が少ないアイドリングストップ装置付きノンステップバス車、並びに環境負荷の少ない非化石エネルギー自動車を計画的に導入し、人にもまちにも優しいバスサービスの提供を目指す。

・令和4年度末車両数

単位：両

	ノンステップ	ワンステップ	ツーステップ
大型バス	391	28	7
中型バス	23	5	0
小型バス	4	0	0
るーぷる	5	3	0
計	423	36	7

※466両全てディーゼルエンジン車（内9両ハイブリッド車）



⇒令和7年度末までに、るーぷる車両を除く一般乗り合いバス車両を、全てノンステップ車両に更新する。  
また、改正省エネ法の施行により、保有台数に占める非化石エネルギー自動車に関する2030年度の導入目標（5%）が設定されたため、電動バス等の導入に向けた調査・検討を行い計画的な導入を図る。

## ◆バス待ち環境の向上

- ・これまでの実績（令和3～4年度）  
上屋：21箇所（内、広告付き上屋18箇所）  
ベンチ：3箇所  
接近表示器：7箇所



（上屋・ベンチ）



（接近表示機）

⇒ 地域からの要望は多いものの、全てを直ちに対応していくことは困難であることから、年度毎に各設備の設置目標数を設定し、優先順位をつけながら着実に実行する事で、バス待ち環境の向上を計画的に進めていく。

また、デジタルサイネージ広告付き上屋は、令和5年10月以降に本格稼働開始の見込み。

デジタルサイネージ広告は、ディスプレイに映像や文字を表示し、表示内容を秒単位で切り替えることが可能なため、多様な映像広告を展開でき、必要に応じて公共情報を配信することも可能。

戦略3  
まちづくりへの  
貢献

【目指すべき姿】

持続可能な社会を目指すSDGsの実現等に向け、お客さまの多様性や地球環境にも配慮しながらサービスを提供することで、仙台のまちづくりに貢献する市バス・地下鉄を目指します。

取組1 公共交通を中心とした交通体系の充実

・仙台市における交通政策の指針である「せんだい都市交通プラン」では、地域交通の確保、持続可能な公共交通ネットワークの構築等の施策を推進し、過度に自家用車に依存しない公共交通を中心とした都市交通を充実させていくこととしています。これらの施策と連携した取組みを実施します。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の利用促進施策との連携</li> <li>・都心の回遊促進施策との連携</li> <li>・フィーダーバスの利便性向上</li> <li>◆<u>地域の移動手段の確保に向けた取組みとの連携</u></li> </ul>
○	0	
△	0	

## ◆地域の移動手段の確保に向けた取組みとの連携

### ○仙台市地域交通計画について

持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、鉄道や路線バス、タクシー、地域交通など、地域の実情に応じた公共交通あり方を位置づけ、移動手段の確保を目的として、令和4年3月に仙台市都市整備局が策定。

#### 【基本方針】

- 1 公共交通軸の形成・機能強化
- 2 路線バスの利便性向上
- 3 地域交通の維持・確保・充実
- 4 都心回遊交通の強化
- 5 公共交通のシームレス化・利用促進

### ○仙台市利便増進実施計画について

上記の地域公共交通計画に位置づけられた各施策について、より具体的な取組内容を交通事業者等の合意のもと定めるもの。令和5年3月、仙台市都市整備局が策定。

#### 交通事業者として仙台市の施策と連携

- ・ 路線バスの利便性向上「八木山ラインのバス待ち時間短縮の取組み」
- ・ 地域交通の導入・推進「都市整備局が開催する地域との意見交換会への参画」

## ○地域交通の導入・推進

- ・ 仙台市地域交通計画の都市整備局の目標値

地域交通の導入地区数：令和3年度末時点で「4地区」⇒令和8年度末時点で「10地区」

- ・ 経営計画で見込んだ地域交通への転換による事業量削減（一定エリアの路線廃止）

仙台市交通事業経営計画では、上記の仙台市地域交通計画の目標を踏まえ、地域交通への転換により、令和5年度から令和7年度で約5%（各年度約1.7%）の事業量削減、計画期間（R3~12年度）累計で、約11億円の費用削減を見込む。

- ・ 導入の進捗状況

令和5年4月時点      本格運行    3地区

                         実証運行    1地区（令和6年4月本格運行予定）

                         試験運行    1地区

                         その他、新たに3つの地域で地域交通運営検討会を組織

⇒転換に向けた取組みは継続しているものの、上記で見込んでいたとおりの交通局の事業量削減につながるかは、不透明である。

## 取組2 まちづくりとの連携・社会への貢献

・交通事業者として、様々なまちづくり施策と連携しながら、多様なお客さまが快適にご利用いただけるよう環境整備に取り組むことで、市民の暮らしと活発な都市活動を支えます。

R4年度評価	取組み件数	取組み項目
◎	6	・バリアフリーの推進 ◆福祉施策への貢献 ・観光施策への貢献（バス・地下鉄） ・MaaSの推進 ・ICTや新技術の活用の検討
○	0	
△	0	

## ◆福祉施策への貢献

- ・icscaシステムによって実現される仙台市施策「敬老乗車証」制度、「ふれあい乗車証」制度に引き続き協力。icscaを利用することで、細やかな制度設計・運用・乗降データ等の分析を可能に。
- ・各種手帳をお持ちの方への福祉割引を継続、令和4年度よりミライロIDにも対応。



## ○敬老乗車証制度（仙台市施策）

- ・制度の概要

仙台市にお住いの70歳以上の方が、市バス・宮城交通バス・地下鉄を1割の自己負担で利用できる、仙台市の施策。

- ・一般会計からの負担金収入

仙台市から、普通運賃相当額を負担金として受領

### 運送収益に占める敬老乗車証負担金収入の割合

	H29	H30	R1	R2	R3
市バス	18.3%	19.0%	19.4%	18.4%	18.6%
地下鉄	6.0%	6.2%	6.3%	5.5%	5.5%

## ○ふれあい乗車証制度（仙台市施策）

仙台市の発行する各種障害者手帳をお持ちの方が、市バス・宮城交通バス・地下鉄の市内区間を無料で利用できる仙台市の施策（所得制限あり）。

仙台市から、普通運賃の5割に相当する額を負担金として受領している。

## ○福祉割引制度

各種手帳・障害者手帳アプリミライロIDの提示により、仙台市交通局では各種運賃の割引を行っているほか、自動的に福祉割引が適用された運賃を支払うことができる福祉割引用icscaの発行を行っている。

### 仙台市交通局での福祉割引率

	券種	本人	介護人・付添人
市バス	普通運賃	50%引	50%引
	定期券	30%引	30%引
地下鉄	普通運賃	50%引	50%引
	定期券	23.1%引	23.1%引



障害者手帳アプリミライロID

戦略4  
持続可能な  
経営の確保

【目指すべき姿】

将来にわたり、市バス・地下鉄事業を安定的に運営できるように、経営基盤の強化に取り組めます。

取組1 経営基盤の強化・経営の健全化

・交通事業の根幹である乗車料収入の確保に向けて利用促進に取り組むとともに、既存資源の有効活用等による増収や、運行の効率化等による費用の低減を図り、持続可能な財政運営に取り組めます。

R4 年度評価	取組み 件数	主な取組み
◎	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿線の地域、イベント、施設等との連携</li> <li>・イメージアップ事業の推進</li> <li>・地元スポーツチーム等との連携</li> <li>◆資産の有効活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄の運賃水準の検討</li> <li>・企業債発行額の精査による利息負担の抑制</li> <li>・燃料費・光熱水費の節減</li> <li>・投資の選択と集中（全体）</li> </ul> </li> <li>◆バス運転業務の管理の委託の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス運転業務の管理の委託のあり方検討</li> </ul> </li> </ul>
○	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市バス・地下鉄利用のきっかけ作り</li> <li>・大学・高校との連携</li> </ul>
△	1	◆ <u>広告料収入の確保</u>

## ◆資産の有効活用

### ▶資産の有効活用による収入計（効果額は税抜）

	令和3年度	令和4年度決算見込
自動車	72,223千円	73,446千円
高速鉄道	658,804千円	674,821千円

#### ○主な項目

- ・営業所・駅等への自動販売機設置

	令和3年度	令和4年度決算見込
自動車	4,847千円	4,629千円
高速鉄道	42,652千円	46,382千円

- ・駐車場・駐輪場用地の貸し付け

	令和3年度	令和4年度決算見込
自動車	7,770千円	7,797千円
高速鉄道	61,658千円	81,591千円



- ・ 荒井駅西側用地の貸し付け

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	—	1,320千円

- ・ 駅構内及びトンネル内への携帯電話用アンテナ等設置による  
携帯電話会社からの土地物件賃貸料

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	330,645千円	326,305千円

- ・ 駅ビル（泉中央駅）

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	92,651千円	95,708千円

- ・ コンビニエンスストア、ATMの設置等による土地物件賃貸料

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	24,891千円	25,855千円



・コインロッカー設置

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	17,348千円	21,851千円

・元バス営業所用地の貸付

	令和3年度	令和4年度決算見込
自動車	42,966千円	42,966千円

・交通局庁舎貸付

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	49,682千円	37,421千円

・バス停広告付上屋

	令和3年度	令和4年度決算見込
自動車	15,267千円	16,484千円



その他（不用品の販売）

・地下鉄SSサインの販売（12台）

	令和3年度	令和4年度決算見込
高速鉄道	—	545千円

## ◆バス運転業務の管理の委託

- ・委託の状況（R5.4.1時点）

事業所	委託事業者	運行車両数	路線数等
白沢出張所	JRバス東北(株)	4 2 両	7 路線 3 7 系統
七北田出張所	JRバス東北(株)	3 2 両	9 路線 2 8 系統
東仙台営業所	宮城交通(株)	7 8 両	9 路線 4 5 系統
霞の目営業所	宮城交通(株)	7 7 両	1 2 路線 5 6 系統

委託率は49.1%となっている。 ※法令により、通常で委託できる事業量は全体の50%

- ・委託による経費削減効果（委託期間5年間の削減効果額、R4.12末時点）

事業所	委託期間	効果額
白沢出張所	R3~R7	約 4 0 4 百万円
七北田出張所	H31~R5	約 2 4 6 百万円
東仙台営業所	R2~R6	約 1,1 9 5 百万円
霞の目営業所	H30~R4	約 1,6 3 4 百万円
合計		約 3,4 7 9 百万円

⇒全国的な大型二種免許保有者の減少等により、バス事業者における人材確保のための費用が上昇傾向にあることから、近年、管理の委託費用が年間約2%ベースで上昇傾向にあり、経費削減効果が減少している。  
 近隣事業者や県外事業者への受託意向調査をもとに委託事業量の細分化をし、新規事業者の参入機会を設けることで価格の競争性を取り入れていくなど費用圧縮に努める。

## ◆ 駅業務委託の実施

### ・ 現状

種別	全駅数	委託駅数	委託駅名	現委託事業者	現契約期間
南北線	17	10	黒松、旭ヶ丘、台原、北仙台、北四番丁、五橋、愛宕橋、河原町、長町一丁目、長町	(株)セノン	令和2年3月27日～ 令和7年3月31日 ※委託駅での業務は 令和2年4月1日から開始
東西線	13	10	青葉山、川内、国際センター、大町西公園、青葉通一番町、宮城野通、連坊、薬師堂、卸町、六丁の目	ALSOK 宮城(株)	令和2年11月4日～ 令和8年3月31日 ※委託駅での業務は 令和3年4月1日から開始

### ・ 委託による経費削減効果

現在の駅業務委託の契約金額をもとに試算した経費削減効果額は、南北線・東西線合わせて約200百万円/年。

⇒ 経営の更なる効率化による持続可能な経営を目指し、南北線については次期業務委託が始まる令和7年度に合わせて委託駅の拡大を検討する。

(仙台駅のような主要駅や異常運転時に運転取扱業務が生じる可能性が高い端末駅は委託対象外とするため、東西線は委託駅拡大の検討は行わない。)

## ◆バスの利用状況に応じた運行の効率化（便数調整）

### ○経営計画で予定していた事業量削減と効果額

計画期間（令和3～12年度）中に約12.5%の事業量削減

（令和3年4月、令和6年4月、令和8年4月、令和10年4月、令和12年4月に各▲2.5%）

累計で約22億円の効果額を見込む

### ○事業量・経費削減効果見込額

- ・令和3年4月ダイヤ改正時（コロナ禍による乗車人員の大幅な減少を踏まえ実施）

事業量：2.6%削減

経費節減効果見込額：8,200万円/年

- ・令和5年4月ダイヤ改正時（乗車人員の回復低迷を踏まえ、令和6年度予定の便数調整を一部前倒して実施）

事業量：1.3%削減

経費節減効果見込額：6,000万円/年

⇒利用状況に応じた運行の効率化について検討を重ね、適切な時期や規模のもと、経費削減に繋がる効果的な便数調整を実施していく。

## ◆【新】地下鉄の利用に応じた運行の効率化（便数調整）

### ・概要

需要動向に応じ、南北線・東西線とも、日中時間帯の運行間隔を7分30秒から8～10分に見直し（令和5年7月1日～実施）

これにより、仙台駅における南北線と東西線の乗継利便性も向上。

### ・経費削減効果見込み

電気料金の削減効果として、年間約7,000万円を見込んでいる。

⇒今回のダイヤ改正後の乗車人員や混雑率等の把握を継続的に行い、状況に応じた適切なダイヤ設定を行っていく。



＼7月1日(土曜日)から／  
地下鉄南北線・東西線の  
ダイヤが変わります

- ◆平日日中と土休日の運行間隔を変更します  
※平日朝夕の通勤通学時間帯は変更しません
- ◆東西線一部駅の停車時間を延長します
- ◆新しい時刻表は「せんだい市バス・地下鉄ナビ」からご確認いただけます

## ◆【新】icscaポイント制度の見直し

### ・概要

平成26年度のIC導入に合わせて、導入した制度であったが、新型コロナウイルス感染症の影響等により悪化した経営状況を勘案し、乗車回数に応じて付与していた「基本ポイント」を令和5年4月1日より廃止。

市バスと地下鉄を乗り継いだ場合に付与される「乗継ポイント」については継続。

### ・収入増効果の見込み

ポイントチャージされた金額を乗車料収入から除していたことから、ポイントチャージ金額分の乗車料収入増を見込むことができる。

令和4年度の基本ポイントチャージ実績額

自動車：106,994千円      地下鉄 217,822千円



**icsca**ポイントのうち  
**基本ポイントの付与を終了します**

ICカード乗車券 **icsca**(イクスカ)で、月の乗車回数や利用金額に応じて貯まる基本ポイントについては、地下鉄、市バスおよび宮城交通・ミヤコーバス(一部高速バス路線を除く)ともに、付与を終了いたします。

**付与終了日 2023年3月31日営業日**

- バスと地下鉄を乗り継いだ際に貯まる**乗継ポイント**は継続します。
- ポイントのチャージ・利用も、これまでどおり行えます。

ポイントの失効にご注意ください

例えば…2023年3月中に地下鉄、バスに乗り、ポイントが貯まった場合

2023年3月31日 2023年3月31日 2023年4月10日 2024年4月30日

地下鉄、バスに乗り、ポイントチャージ可能

2023年4月10日からポイントチャージ可能

2024年4月30日までにポイントチャージしなかった付与されたポイントは失効します

お問い合わせ 仙台市交通局経営企画課 TEL: 022-712-8356 仙台市交通局ウェブサイト <https://www.kotsu.city.sendai.jp/>

携帯電話のご利用マナーにご協力ください。

## ◆広告料収入の確保

- ・ 広告料収入の推移（千円、税抜）

	R 1	R 2	R 3	R 4
自動車	147,461	149,351	139,865	143,807
高速鉄道	614,778	506,635	456,177	464,660

令和4年度の令和元年度との比較では、バスは横ばいであるものの、地下鉄は未だ8割を下回っている。

- ・ キャンペーン等の取組み  
メディアガイドの作成  
空き枠の割引キャンペーン  
トップセールスの実施 等

▶ トップセールスの実施  
(R4 ベガルタ仙台)

R3効果額（税抜）  
：13,796千円



◀ ラッピングバス、  
駅副駅名

⇒引き続き地下鉄沿線事業者や本市進出事業者等に、積極的な営業活動を実施していく。

## 取組2 人材の育成・確保

・市バス・地下鉄両事業を安定的に運営していくための体制を整えるとともに、職員が十分に能力を発揮できる職場づくりを行います。

R4年度評価	取組み件数	主な取組み
◎	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の職員の育成と技術の確実な継承</li> <li>・業務への意欲を高めるための取組み</li> </ul> <b>◆【新】デジタル技術の活用による事務の効率化</b>
○	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の働きやすい環境づくり</li> <li>・コンプライアンスの推進</li> </ul>
△	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>安定的な人材確保</u></li> <li>◆<u>ワークライフバランスの推進</u></li> </ul>

## ◆【新】デジタル技術の活用による事務の効率化

組織全体の生産性・業務効率性の向上のために、デジタル化の活用による内部事務手続きの効率化を進める。

### ・主な取組み

各種業務用システムの更新に係る共同利用の検討

庁内業務環境整備

各種業務効率化システムの利活用

## ◆安定的な人材の確保

### ・バス・地下鉄職員の充足率

各年度4月1日時点の充足率は近年下記のとおり推移している。

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
バス運転手	100.7%	97.3%	99.4%
地下鉄職員	99.5%	102.3%	103.3%

バス運転手の充足率は目標値である98%を下回っている年度があるほか、再任用が終了した職員を再度雇用する等により、人員を確保している状況にあり、引き続き適正な人員の確保に取り組む必要がある。

- ・人材確保の困難と「2024年問題」について

全国的に大型自動車第二種免許の保有者が減少している中で、本市バス事業を維持するため、採用後に大型二種免許を取得してもらい、その費用を交通局が全額負担する「バス運転手教習生」制度を平成28年度より実施しているが、採用者数は減少傾向にあり、人材の確保に苦慮している状況である。

そのような中、2024年度からは運転手の労働時間上限基準の見直しが行われるため、運転手の労働環境改善が図られる一方、運転手の充足率確保がさらに困難になることが懸念されている。

- ・人材確保に向けた取組み

職員募集ポスターの作成、市政だよりや就職サイト等の各種媒体への広告掲載のほか、市内で開催される合同企業説明会や、東京で開催されるバス運転手希望者向けの合同企業説明会に毎年出展している。

また、特に若い世代をターゲットとして、専門学校等へのPRや交通局ホームページ等において採用後の流れを分かりやすく紹介する動画の掲載を行うなどの取組みを実施している。

## ◆ワーク・ライフ・バランスの推進

- ・家庭と仕事の両立支援を行うとともに、超過勤務縮減の取組みを進める

(ノ一残業デーの実施、育児のための仕業勤務導入、超過勤務時間の管理及び情報提供)

- ・運転手の労働時間上限基準見直しを踏まえたダイヤ編成等について検討

- ・職員が子育てしやすい環境づくりについて引き続き検討

## (4) モニタリング指標

### ◆自動車運送事業 財政目標

指標	指標の説明	望ましい方向性	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
・ 走行1kmあたりの収入 営業収益÷走行キロ	市バスが1km走行する当たりの収入を表し、値が高いほうが効率よく収入を得られています。	↑	494円	386円	413円	448円	
・ 資金不足比率 資金不足額÷営業収益	事業規模（営業収益）に対する資金不足額の割合で、20%以上となると、法の定めにより「経営健全化団体」となります。	↓	4.3%	9.5%	5.6%	3.7%	計画期間を通じて20%未満に抑制
・ 一般会計補助金繰入額	赤字路線の運行等のために仙台市の一般会計から繰り入れている金額で、値が低いほど経営の自立性が確保されています。	↓	27.6億円	30.1億円	33.3億円	33.7億円	

### ◆高速鉄道事業 財政目標

指標	指標の説明	望ましい方向性	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
・ 単年度損益 収益－費用	単年度の収支の差し引きを表し、値がプラスの場合黒字、マイナスの場合赤字となります。	↑	▲45.4億円	▲62.5億円	▲28.3億円	▲16.3億円	計画期間中に黒字転換を図る
・ 累積損益	毎年度の損益（赤字又は黒字）を通算したものです。	↑	▲867.2億円	▲929.3億円	▲957.6億円	▲973.9億円	令和36年度までの赤字解消を目指す
・ 資金不足額 (流動負債－流動資産)－解消可能資金不足額	財政健全化法上の資金の不足額を表す値です。	↓	なし	なし	なし	なし	計画期間を通じて発生しないよう努める

## ◆戦略ごとの目標

指標	指標の説明	望ましい方向性	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
<b>戦略1 安全・安心の推進</b>							
・市バス重大事故件数	国の規則に定める重大事故の発生件数を表します。	↓	8件	3件	5件	3件	0件を目指す
・市バス走行10万km当たりの有責事故件数	市バスが10万km走行する当たりの交通局の責任による事故件数を表します。	↓	0.63件	0.53件	0.54件	0.53件	
・地下鉄有責事故件数	交通局の責任による鉄道運転事故等の件数を表します。	↓	0件	0件	2件	1件	0件を目指す
<b>戦略2 快適なお客さまサービスの提供</b>							
・バスの遅れの割合	市バスが終点で10分以上遅れた割合を表し、値が低いほうが定時運行できていると言えます。	↓	16.9%	10.0%	9.0%	8.00%	
・有責の地下鉄30分以上の遅れ	交通局の責任による30分以上の遅れを表し、値が低いほうが安定運行できていると言えます。	↓	0件	0件	2件	1件	0件を目指す
・低公害バス比率	バス車両に占める国の排ガス規制に適合したアイドリングストップ装置付きバスの割合です。	↑	94.6%	96.4	97.2	97.4	計画期間中に100%を目指す
・低床バス比率	バス車両に占めるノンステップバス及びワンステップバスの割合です。	↑	82.5%	90.3	94.6	98.5	計画期間中に100%を目指す

指標	指標の説明	望ましい方向性	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
<b>戦略3 まちづくりへの貢献</b>							
・ 一日平均乗車人員 年間乗車人員÷年間日数	市バス・地下鉄の一日当たりの乗車人員を表し、値が大きいほど、まちづくりに市バス・地下鉄がより貢献していると言えます。	↑	市バス103千人 地下鉄250千人	市バス76千人 地下鉄191千人	市バス81千人 地下鉄205千人	市バス87千人 地下鉄227千人	令和7年度見込 市バス102千人 地下鉄 275千人
<b>戦略4 持続可能な経営の確保</b>							
・ 営業収支比率 営業収益÷営業費用	営業費用が営業収益によってどの程度賄えているかを表す指標です。	↑	市バス 67.9% 地下鉄 73.5%	市バス 51.9% 地下鉄 56.6%	市バス 55.9% 地下鉄 69.6%	市バス 60.3% 地下鉄 77.2%	
・ 乗車料収入 (消費税及び地方消費税抜き)	営業収益のうち、お客さまからいただく運賃(乗車料)による収入です。	↑	市バス 6,432,054千円 地下鉄 15,775,986千円	市バス 4,832,679千円 地下鉄 11,619,880千円	市バス 5,084,363千円 地下鉄 12,675,740千円	市バス 5,508,574千円 地下鉄 14,129,670千円	令和7年度見込 市バス64億円 地下鉄 174億円
・ 有償貸付等収入 (消費税及び地方消費税抜き)	営業収益のうち、資産の貸付け等により得ている収入です。	↑	市バス 54,665千円 地下鉄 623,233千円	市バス 53,058千円 地下鉄 610,909千円	市バス 56,956千円 地下鉄 658,804千円	市バス 56,962千円 地下鉄 674,821千円	
・ 広告料収入 (消費税及び地方消費税抜き)	営業収益のうち、車両や駅舎に企業等が掲出している広告により得ている収入です。	↑	市バス 147,461千円 地下鉄 614,778千円	市バス 149,351千円 地下鉄 506,636千円	市バス 139,865千円 地下鉄 456,178千円	市バス 143,807千円 地下鉄 464,660千円	